

今までの運用方法を退職後も続けて大丈夫か不安。今後に向けて今すべきことはあるか？



こんなトークで
こたえよう



投資の目的は年齢などで変化します。退職を機に、お客様が現在保有されている金融商品を見直すことは大切です。お持ちの金融商品の中に大きく価値を下げた塩漬け状態のものはありませんか。価値は下がっていても、下がった価値分の資産として有効活用を考えることは必要です。

定年退職のタイミングを好機と考え、今お持ちの金融商品の棚卸しを行いましょ。

①今後も継続して投資するもの、②売却を検討するが、現状の価値が安すぎるので様子を見るもの、③売却して現金化するのに躊躇がないものに分けていきましょう。

塩漬け状態の商品は投資した時の価値は忘れて、「今から投資するなら選ぶか」を基準に考えることが大切です。塩漬けになっていた資産を活

きた資産として見直す機会を作ることが大切です。

解説

退職後も運用を続けるために現在保有している金融商品の見直しは大切だ。投資した当初に大きく値下がりしたまま、放ってある金融商品はないだろうか。いわゆる塩漬けにしている金融商品である。

1000万円投資したものが300万円になり、「まだ値下がりはしたままだな」と日常の値動きにさえ関心を失ってしまうのは仕方ない。しかし、300万円の現金価値があるのを生かさずに放っていることはもったいない話だ。

金融商品の棚卸しで退職後の人生を豊かにする

定年退職を迎えるのを良い機会として、現在保有している金融商品を、①今後も継続して投資するもの、②売却を検討するが、現状

の価値が安すぎるので様子を見るもの、③売却して現金化するのに躊躇がないもの、に分ける金融商品の棚卸しをしてみよう。

資産形成層の年代には、将来のまとまった資金作りが主たる投資目的だったかもしれないが、定年退職後の投資の場合は、大きく資産を増やすことよりも、老後の人生を狂わすほど大きく資産を減らすことなく、残りの人生を豊かにするためのひとつの手段として投資と付き合っていくことのほうが大事だ。

年齢や財産状況によって投資目的は変化していくものだ。現在保有している金融商品、あるいは、今後投資する金融商品は、現在の投資目的にあったものを再度検討する必要がある。

また、保有している金融商品がどの投資対象に投資をしているのかの確認も大切だ。

投資対象と言われて、株式、債券、商品、投資信託などを思い浮かべる方も多いと思うが、投資信